

まえがき

今から10年以上前、私たちは「ロスジェネ」と名付けられた。

現在の30代なかばから40代なかばを指す。

失われた世代。就職氷河期の影響をもろに食らった世代。貧乏くじ世代。非正規第一世代。呼び方はいろいろあるが、どれも嬉しくないものばかりだ。

ちなみに1975年生まれの私は2020年1月、45歳になった。四捨五入したら50歳。同じ四捨五入をしたら50歳という枠には「サザエさん」の「磯野波平」（54歳）がいる。

波平は正社員として勤めて世田谷に家まで建てて子ども孫もいるというのに、私は独り身。当然、子どもなく孫もない。

そうして周りを見渡せば、いまだ正社員の職がなく、結婚もせず子どももいないという同世代が山ほどいる。一軒家を建てるところか、ずーっと六畳一間の安アパート住まいという者もいれば、ネットカフェ暮らしの者もいる。低賃金ゆえ実家から出られず親と同居するものの、「このままでは数年以内に介護離職かも」と怯える者もいる。

2019年、こんな私たちの世代が「人生再設計第一世代」と名付けられた。

はっきり言って、40代なかばになってまで自分たちに「就職氷河期」という言葉がついて回るなんて、予想もしてなかった。20年以上も苦境が続くなんて、思ってもみななかった。バブル崩壊後の景気悪化は一時的なもので、すぐに自分たちは企業社会に吸収されていくものだと思っていた。そして自分も親世代のように、就職して結婚して子どもを産んで、という人生を歩んでいくものだと思っていた。

だけど、中年になった今、そのすべてを手に入れていない。私も、周りの人々の多くも。

そんなロスジェネだが、一失われた20年—の中、厳しさを増す雇用環境の中を生きてきた私たちは、一億総中流が崩れた社会を走るトップランナーとも言える。

ロスジェネと「今」について、存分に語りあった。

2020年1月 雨宮処凛